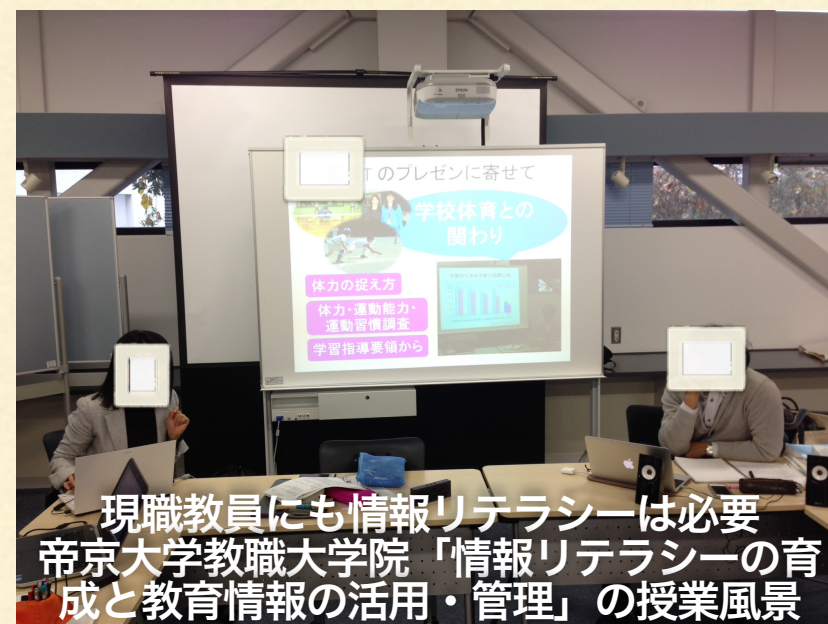


東京学芸大学学校図書館運営専門委員会の 実践研究をめぐって



帝京大学教育学部 鎌田 和宏

まず

- 司書教諭が主導して発表を
- 授業公開を含む実践研究

附属世田谷小の実践

(5年理科：堀井先生・司書：吉岡先生) をめぐって

- 「情報教育総合センター」(メディアルーム)としての取り組み
- 真の「情報活用能力の育成」→教育課程への位置づけは？紙媒体の特性を活かす→子どもの発達にあわせて
- 「トショシツ」(本の倉庫)から「図書館」(子どもが必要な資料を見つけ・活用できる機能の発揮)へ
- 珍しい「理科」の実践
 - 「トピックボックス」活用の授業実践
 - 実践研究 5年天気での活用(人体でも活用)
 - 台風の資料映像
 - ブックトーク(すべてを示しているわけではない)
 - 本→必要に応じてネット(インターネットに飛びつく子どもに問題を感じていた)
 - 5年生3クラス ネットだけで調べる(展開が困難だった) 図書資料から学習(必要に応じてネットも活用)

■ 成果

- まず図書資料を用いることが有効→なぜか？
- 司書とのコミュニケーション・協働から授業構想が豊かになる

附属大泉小の実践

（2年国語：山下先生・司書：小野寺先生）をめぐって

- マルチメディア室・・・1～4年生図書の時間／3～6年総合的な学習で活用
- 現行学習指導要領では読書指導・読書活動・図書館活用が重視されている
- 「伝統文化」→神話（教科書教材・図書資料←採話によって詳細が異なる）
- 選書での協力『あかね書房』本の文体・「シリーズ読み」→読み聞かせ・並行読書→自ら読む・読み比べる→教科書を超えて、関心が高まり自ら学んでいく姿

■ 成果

- 場→調べやすい環境（本=資料がある）、グループ活動しやすい
- 司書との協働によるきめ細やかな指導
- 学校図書館を活用してどのような児童を育てたいのか？→学校目標の問題

附属世田谷中の実践

（2年家庭科：栞原先生・司書：村上先生）をめぐって

■ 学校図書館

- ちょっと狭い！→授業を行うことを前提に環境を見直す
- 蔵書数22000冊→貸出総数年間1万冊：年間購入冊数約1000冊
- 図書委員会の活動も活発（購入・講演会・本のリレー等）

- 1・2年地理調べ学習→家庭科調理へ 2年国語 短歌プレゼン／近代文学新聞2年英語多読・・・の延長線上にある家庭科の授業←**教育課程への位置づけは？**

■ 家庭科（2～3年）：幼児の役に立つものをつくろう

- 資料をそろえるのに図書館との協働が有利
- 授業の場として...図書館には豊富なヒントがある
- 文化祭の作品展示で教科の作品を→潜在的カリキュラム

次年度に向けて

- 学校図書館活用の有効性の更なる周知を
- 年間・数年間を見通した実践研究に
- 図書館を活用して育てたいこと
→ 教育課程への位置づけを示して欲しい
- 他附属の実践研究も知りたい

学校図書館担当職員の効果的な活用 方法と求められる資質・能力は？

- 基盤整備 学校図書館機能の認識
- 効果的な活用方法
 - 学習の場（資料支援）としての活用
 - 情報リテラシーの指導への協力
- 求められる資質・能力
 - 図書館専門職として
 - 学校のスタッフとして
 - 指導に関わる者として 教育に関する専門性
 - 協働する者としてのコミュニケーション能力